

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大里柳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

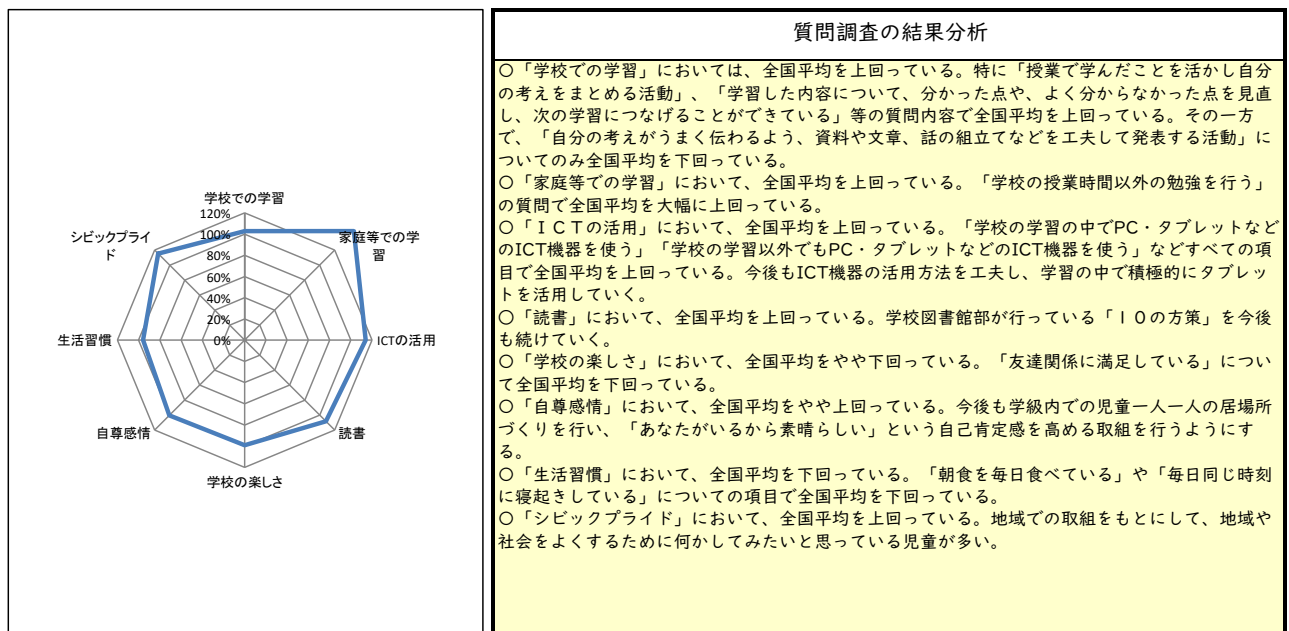
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての領域・観点・問題形式で全国平均正答率を上回っている。 ○ 国語科の正答数別人数の分布から、低・高位置層の格差が見られる。 ○ 中央値は、11.0で全国の10.0と比べ1問多い。 ○ 14問中、13問が全国平均正答率を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ高かった。 ○ 「読むこと」では、すべての問題の平均正答率が高かった。なかでも目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ特に高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「書くこと」では、目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ低かった。 	
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての領域・観点・問題形式で全国平均正答率を上回っている。 ○ 算数科の正答数別人数の分布から、低・中・高位置層の格差が見られる。 ○ 中央値は、10.0で全国と変わらない。 ○ 16問中、9問が全国平均正答率を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「図形」の領域において、台形の意味や性質について理解しているかどうかを見る問題と角の大きさについて理解しているかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ高かった。 ○ 「数と計算」の領域において、異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「数と計算」「データの活用」の領域において、棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ低かった。 ○ 「数と計算」の領域において、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾分として捉えることができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ低かった。 ○ 「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域において、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ低かった。 	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての領域・観点・問題形式で全国平均正答率を上回っている。 ○ 理科の正答数別人数の分布から、低・中・高位置層の格差が見られる。 ○ 中央値は、12.0で全国の10.0と比べ2問多い。 ○ 17問中、16問が全国平均正答率を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生命」を柱とする領域は、すべての問題の平均正答率が高かった。なかでも、顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身についているかどうかを見る問題やヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についているかどうかを見る問題、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ特に高かった。 ○ 「エネルギー」を柱とする領域は、すべての問題の平均正答率が高かった。なかでも、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についているかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ特に高かった。 ○ 「粒子」を柱とする領域は、すべての問題の平均正答率が高かった。なかでも、「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ特に高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生命」を柱とする領域において、赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果をもとに結論を導いた理由を表現することができるかどうかを見る問題の平均正答率が全国平均正答率と比べ低かった。 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

全職員で「スクールプラン」の本校での取組内容について共通認識をし、「探究的な学び」「書く活動（ノート指導）・ふりかえり・GoodNoteの掲示」「学習規律（大里柳小スタンダード）」「タブレット端末の効果的な活用」の重点化を図る。

〈継続して行う具体的取組〉

- 探究的な学びを実現するための授業づくりの5つの着眼として、「①具体的な活動や体験を通して気付きや考えを生み出すための工夫 ②身近な生活に関わる見方・考え方を生かし気付きの質を高めあうための工夫 ③児童が探究的な学びの必要性を見出せる単元づくり ④単元のゴールを明確にした探究的な課題設定の工夫 ⑤探究的な学びに対して多様な方法で整理・分析する仕方を示し協働して考え表現する工夫」を仕組む。
- 全職員で、ノート指導において「めあて・まとめ・自分の考えのあるノートづくり」を行う。さらに、思考の足跡が読み取れるノートづくりを指導し、自分の思考の足跡を基に自分の考えを他の人に説明できるようにする。
- 考えの広がりや深まりを意識化できるように、発表や振り返りの仕方を工夫する。（○○さんの考えを参考にして・○○さんの考えを取り入れて）
- ドリルアプリの活用を進めていく。今後も「させっぱなしにしない。」「個別指導や一斉指導を効果的に行う。」を継続し、児童の進捗状況やつまづき傾向を把握することを心掛け、各自の学力向上の為の手立てに繋げる。
- 各学年においてカメラ機能やグーグルマップ、スライド等のアプリの積極的な活用を行う。
- 生活科及び総合的な学習の時間における児童が探究的な学びを目指した学習の「多様な意見を引き出す工夫」「意見の分類・整理」「成果の発表」などの場面でドキュメントや動画、写真などICTツールを活用することを進めていく。今後も、ICTツールなどを活用し、自分の考えを伝え、他者からのフィードバックを得ることで学びを深め、達成感や成就感を得て、次の探求へ繋げていくような実践を行う。

〈国語科の具体的取組〉

- 資料から必要な情報を捉え、そのことをもとに自分の考えや筆者の考えを書く活動を取り入れる
- 自分の考えを整理する時間（一人活動・振り返り）をとる。
- メモ・視写を行う。
- 多様な書く活動を学習に取り入れる。
- 自分の考えを何字以内に書く活動を行う。何字以上何字以内など字数制限のある記述に慣れる取組を行う。
- 筆者の考えを基に記述することを学習に取り入れる。
- 複数の条件を基に記述させる。

〈算数科の具体的取組〉

- 同じ問題でも求め方によって答えが変わってくることを考えさせるようにする。グラフの読み取りをいろいろな求め方で考えさせる。
- 「書く」活動の充実、自分の考えがあるノート指導を行う。
- テーブ図や数直線をノートに書いて、それを基に問題を解く。
- 数直線上の分数の捉えを考える。
- グラフの特徴を複数の観点で捉えて情報を読み取り、複数の情報から分かることを話し合う。
- 複数の情報を関連づけて論理的に考察する。

〈理科の具体的取組〉

- 授業の中で予想を立てた際に、自分の予想から考えられる結果までの見通しをもたせたり、友達との予想の相違から、他の結果を推測させたりして、自分の考えをより深めることができるようにする。
- 実験や体験的な活動を重視する。実験結果から分かったことを自分でまとめさせる。
- 複数の情報を根拠に、自分の考えを表現したり、友達の考えを聞きそれを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりするなど話し合いを重視した学習活動を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

〈生活習慣・家庭学習を高める具体的取組〉

○「家庭学習の手引き」の配布を行い、保護者へ生活習慣・家庭学習の啓発を行う。

- ・ 家庭学習を進めるための3つのポイントと6つの具体的な内容

ポイント1 基本的な生活習慣を見直す。

早寝・早起き・朝ご飯、朝の排便を大切にします。

ポイント2 家庭の学習環境を整える。

決まった場所で一定の時間、テレビを消して学習に集中させる。

ポイント3 学習習慣の定着を目指す。

基本的な学習習慣や自学自習の習慣を身に付けさせる。

具体的内容① 決まった時間に毎日こつこつさせる。

家での勉強の時間の目安は、低学年30分、中学年45分、高学年60分とする。

具体的内容② 集中して学習させる。

短時間で集中して勉強すること。

具体的内容③ 家庭学習をしているときは、テレビを消す。

テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」は厳禁。

具体的内容④ 整頓された場所で、よい姿勢で学習させる。

机の整理整頓。そして、よい姿勢で学習する。本人が安心して落ち着き、集中して学習できる環境づくりを心がける。

具体的内容⑤ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます。

子どものがんばりを認め、誉めたり励ましたりすることにより、自信が付き、進んで学習しようという意欲が高まるようにする。

具体的内容⑥ 学力アップのための規則正しい生活。

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則。十分な睡眠時間を確保する。

○「家庭学習ウィーク＋プラス」の実施

- ・ 家庭学習の手引きを基に主体的に複数教科の自主学習に取り組み、家庭学習の素地を作る。

- ・ 補充学習を行い授業で学んだ内容を定着させる。

- ・ 1週目は、家庭で一定の時間、学習に集中して取り組む家庭学習を行う。2週目は、家庭学習に＋プラスとして、子どもたちの基礎学力や学び方を身に付けさせるために補充学習を実施する。

〈小中で連携して学力向上について取り組む内容〉

○ICTコアスキル→各学年でICTのめあてコアスキルの育成計画の作成を情報部を中心にまとめる。

○ハザードマップ作製→総合的な学習の時間での継続実施をする。

【1～4年生の目標】

- ・ 自分の考えをもち、基礎的・基本的な学習内容に取り組むことができる。

- ・ タブレット端末の基本的な操作方法が分かる。インターネットの安全な使い方や情報の信頼性を判断することができる。インターネットを使った情報検索ができる。プログラミングの基礎を学び、シンプルなゲームを作成することができる。

- ・ 自分の意見を話すこと、相手の話を聞くこと、相手の話に関心しながら聞き、質問の受け答えをすることができる。

- ・ 毎日、家でも学習しようという気持ちになり、宿題などの家庭学習に取り組むことができる。

【5・6年生の目標】

- ・ 自分の考えをノートに言葉や文で表現することができる。

- ・ インターネットを使った情報収集や情報を分析しグラフや表にまとめることができる。プログラミング言語を使ってより複雑なゲームを作成することができる。プレゼンソフトを使って自分の意見や研究結果を発表することができる。

- ・ 自分の伝えたいことを論理的に話したり、相手の考えを理解して受け入れたりして共通理解を深めることができる。

- ・ 生活習慣を見直し、計画的に宿題や自学など家庭学習を主体的に取り組むことができる。